



【資料解説】

1937(昭和12)年7月7日の蘆溝橋事件後、戦争の長期化が予想され、国民の物心両面における総動員が必要となりました。同年9月13日に「国民精神総動員実施要綱」が発表され、国民精神総動員運動が、本格的に開始されました。埼玉県には、1940(昭和15)年5月、県知事を本部長とする国民精神総動員埼玉県本部が設置され、県本部→市町村長→町内会→隣組という、市町村民一人一人に精神総動員運動の実践事項の普及徹底を図る指導体制ができました。

1940(昭和15)年5月、前年の旱害によって米穀需給の調整が必要となったため、国民精神総動員本部は「戦時食糧報国運動実施方策」を策定しました。それを受けて埼玉県本部は「戦時食糧報国運動埼玉県実施方策」を策定しました。

このチラシは、その運動方針を市町村民に知らせるために埼玉県本部が発行したもので、代用食や混食などで節米することや、食糧の増産を呼び掛けています。



【資料解説】

『写真週報』とは、内閣情報部(のち内閣情報局)により、政府の広報宣伝政策の一環として、刊行された週刊のグラフ雑誌です。1938(昭和13)年2月16日付の創刊号から、終刊となる1945年7月11日付の374・375合併号までに全部で370冊発行されました。『写真週報』の販売価格は1部10銭で、全国の官報販売所、書店等で購入を申し込むことができました(1940年当時、そば1杯の値段が15銭)。発行部数は、1941年3月時点では約20万部を数え、「写真週報が断然東洋一」といわれていました。

参考：「アジア歴史資料センターHP」

文書館では、山口氏収集文書の中に263号(1943年3月17日)から299号(同11月24日)までの25冊を収蔵しています。

この写真は、「機械工を志す女性のために」という見出しで掲載されたものです。名古屋鶴舞女子機械工補導所で、入所した女性たち(16歳以上国民学校高等科卒業程度以上)が、教官から、正確に旋盤作業ができたかどうかゲージで精密度の測り方を教わっているところです。